

わが家自慢の味が勢ぞろい

～第30回つけものフェスティバル～

1月12日(金)、市民会館で『第30回つけものフェスティバル』（同実行委員会主催）が開かれました。

この催しは、日本の伝統・食文化である漬物を次世代に引き継いでいくことを目的に、毎年この時期に開催されているもので、今回は市民58人から116品の漬物が出品され、ぬか漬けやかす漬け、魚漬け、玄米漬けなど7部門で自慢の味を競いました。

出品者や一般の参加者が見守る中、市民団体の代表者や公募の市民による審査員が、部門ごとに並べられた漬物を試食しながら、味付けなどを厳しく審査。いずれ劣らぬ出来栄えのおふくろの味に悩みながら入賞作21点を決めていました。

また、今回は第30回を記念し、テレビでおなじみのクッキングキャスター・星澤幸子さんの講演会も開かれました。『食で得られる豊かな人生』をテーマに講演した星澤さんは、「北海道は、稲作や畑作、酪農、漁業などにより、食料がバランス良く豊富に取れる世界一の大地です。皆さんも輸入物ではなく、道内産の農海産物を食べてください」などと話していました。

講演会の後、試食会が開かれ、会場に詰め掛けた市民約600人は、わが家の味付けの参考にと、入賞作をじっくりと味わっていました。



▲漬物の審査



▲ユーモアを交えて講演する星澤幸子さん

越冬する野鳥を観察



～幌別川を歩いて自然ウオッチング～

1月14日(日)、胆振幌別川の白鳥テラスで『幌別川を歩いて自然ウオッチング』（自然愛好グループ『ヨシキリの会』主催）が開かれました。

この催しは、胆振幌別川で越冬するさまざまな野鳥の姿を観察しようといわれたもので、市民など約20人が参加しました。

白鳥テラスからは、羽を休めるマガモやキンクロハジロ、オオハクチョウ、ホオジロガモなどの姿が見られ、参加者は、河川敷を歩きながら、同会の会員による解説を聞いたり、望遠鏡や双眼鏡で野鳥の姿を観察したりするなどして、野鳥の生態を学んでいました。

あきらめないで頑張っ

～堀井学さんのスケート教室・講演会～

1月20日(土)、リレハンメルオリンピック（1994年開催）のスピードスケート500^{メートル}銅メダリスト・堀井学さんを講師に迎え、青葉スケートリンクで小学生対象のスケート教室が、市民会館で講演会『夢への挑戦』（文化・スポーツ振興2006実行委員会主催）が開かれました。

スケート教室で、堀井さんは、直線やコーナーの滑り方などを実際に滑りながら説明。参加した子どもたちには、「夢と目標を持って頑張ってください。あきらめなければきっとかかります」と話していました。

また、講演会では、学生時代の恩師の『絶対にあきらめるな』という教えなどを紹介。堀井さんは、少年団などの指導者に、「今は結果や成果が出なくても、練習を続けることで必ず伸びます。負けたときが最大のチャンスと思って子どもたちに声を掛けてください」と述べていました。

